

新型インフルエンザ発生時

職場における 感染リスクに応じた
感染予防・防止対策と保護具

	流水や石けん・アルコール製剤による手洗い	不織布製マスク(サージカルマスク)	N95マスク以上又は防じんマスクDS2規格以上	手袋	ゴーグルまたはフェイスシールド	ガウン	ヘッドカバー又は帽子	靴カバー又はゴムの長靴	エプロン(ビニール製)	電動ファン付呼吸用保護具(PAPR)※2
リスク	行動環境									
中	① 症状のない人にも通常2m以内に近づく可能性がない 例: 職場においてお互いに2m以上の距離を保つことができる。また発熱や咳などの明らかな症状がある人と同じ部屋にいることはない。	○								
	② 発熱や咳などの症状を有する人に2m以内に近づく可能性がない 例: 職場において発熱や咳などの明らかな症状がある人と同じ部屋にいることはないし、いたとしても自分は2m以内に近づくことはない。	○	△							
程度	③ 通常はないが、突発的な状況でのみ、発熱や咳などの症状を有する人の2m以内に近づく可能性が短時間ある 例: 通常は職場において発熱や咳などの明らかな症状がある人と同じ部屋にいることはないが、もしいた場合には自分は2m以内に近づくことが短時間はありうる。	○	△~○							
	④ 発熱や咳などの症状を有し、新型インフルエンザに感染した可能性が否定できない人の2m以内に近づく可能性がある 例: 患者と対面して状況を確認する者、搬送に関わる者	○	(○)※1	○※1	○	(○)※3	(○)※3	(○)	(○)	(○)
高	⑤ 新型インフルエンザと診断された人の2m以内に近づく可能性がある 例: 患者を搬送する者	○	(○)※1	○※1	○	(○)※3	(○)※3	(○)	(○)	(○)
	⑥ 新型インフルエンザに感染した(疑い例も含む)人の血液などの体液飛散の可能性がある	○	(○)※1	○※1	○	○	○	○	(○)	(○)

参照: 国立感染症情報センター: 「鳥(H5N1)・新型インフルエンザ(フェーズ3~5)対策における患者とその接触に関するPPE(個人防護具)」について Ver 1.4」

注意	a) この表は、現行のガイドラインに沿って作成したものである。
	b) ここに示した感染予防と防護対策と保護具の水準は、推定される新型インフルエンザの感染経路により、現時点でとりうる最も適当だと考えられる策として推奨するものである。各職場における職員の教育・訓練や、備蓄等の検討材料として活用していただきたい。今後の研究による医学的知見および今後のガイドラインの見直しにより、漸次改訂されるのが予測される。よって、常に最新の情報を収集するよう配慮されたい。
	c) ④~⑥のPPEに関しては、専門家の間でもまだ一致した合意が得られていないため、今後、出てくる知見や議論等に応じ変更する可能性がある。

△	十分な防護効果が得られるという科学的根拠はない
(○)	状況に応じて使用する
※1	患者数が相当数増加してきた時点、N95マスク以上または防じんマスクDS2規格以上が入手困難になった場合あるいは他の状況での使用が優先される場合に不織布製マスク(サージカルマスク)の使用になる
※2	PAPRは、環境からの飛沫などの粒子状物質を電動ファンとフィルタによって除去した空気を着用者に送風する。防護性が高く、また呼吸も製品によってはしやすく長時間着用も可能である。高価で使用には熟練が必要なことから、非常に高いリスクが考えられる場合にのみ使用されるべきである。
※3	感染が拡大しフェーズが進むにつれ、必然性が薄れると考えられる
重要	a) 手洗いの励行や、症状のある者に近づかないことが大切。 b) 保護具の装着等の教育を行う。一部の保護具(マスクやPAPR、ゴーグル又はフェイスシールド)は医療従事者以外には特に教育が必要。

プレパンデミックワクチンの製造に用いるウイルス株について

本年 9 月以降のプレパンデミックワクチンの製造（製造後は原液の形で貯留）に用いるウイルス株については、現在までの我が国のプレパンデミックワクチン備蓄と WHO によるワクチン製造用ウイルス株の情報及びトリ - ヒト感染の発生状況に鑑み、現在までに入手可能な H5N1 型ウイルスのうち、クレード 2.2 の 2005 年に中国青海省で分離された株（A/Qinghai/1A/05）をリバース・ジェネティックス法を用いて弱毒化した株である A/bar-headed goose/Qinghai/1A/2005 株とすることとした。

（参考）

プレパンデミックワクチンの製造（製造後は原液の形で貯留）については、現在までに入手可能な H5N1 型のウイルスのうち、下記の製造・備蓄を実施している。

○平成 18 年度

2004 年にベトナムで分離されたウイルス（A/Vietnam/1194/04, Clade 1 に分類されている）の弱毒化した株である NIBRG-14 株と 2005 年にインドネシアで分離された H5N1 の株（A/Indonesia/5/05, Clade 2.1 に分類されている）を、リバース・ジェネティックス法を用いて弱毒化した株（Indo/5/2005(H5N1)/PR8-IBCDC-RG2）を使用して製造。

○平成 19 年度

2005 年に中国安徽省で分離された H5N1 の株（A/Anhui/1/05）を、リバース・ジェネティックス法を用いて弱毒化した株（Anhui/01/2005(H5N1)/PR8-IBCDC-RG5 Clade 2.3 に分類されている）を使用して製造。

研究名	新型インフルエンザウイルスに対するプレパンデミックワクチンの安全性の研究																																																																																																																														
研究の目的	①沈降新型インフルエンザワクチン（インドネシア株、安徽株）を各株、健康成人 3,000 人（計 6,000 人）を対象にプレパンデミックワクチンの安全性を確認する。 ②新型インフルエンザがパンデミックとなった後に有効性を確認する。																																																																																																																														
研究デザイン	非盲検試験																																																																																																																														
ワクチン	沈降新型インフルエンザワクチン H5N1「北研」（安徽株） 沈降新型インフルエンザワクチン H5N1「ビケン」（インドネシア株）																																																																																																																														
用法・用量	沈降新型インフルエンザワクチン H5N1「北研」（安徽株）または、沈降新型インフルエンザワクチン H5N1「ビケン」（インドネシア株）15μg を 3 週間± 7 日間の間隔で 2 回筋肉内接種																																																																																																																														
評価項目	①安全性評価項目 ワクチン接種 1 回目から事後観察日までに発現した有害事象及び副反応の種類、程度、持続期間及び発現率 ②新型インフルエンザパンデミック後に新型インフルエンザ様症状が発現したかを郵便・電話などで確認する。																																																																																																																														
目標被験者数	6000 例																																																																																																																														
実施予定期間	2008 年 8 月～ 2008 年 12 月																																																																																																																														
研究体制	研究代表者：独立行政法人 国立病院機構 三重病院 院長 庵原俊昭 臨床研究調整医師事務局：独立行政法人国立病院機構本部																																																																																																																														
スケジュール	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">未読 ②'</td> <td colspan="2">未読 ③、④'</td> <td colspan="2">未読 ③、④'</td> <td colspan="2">未読 ③、④'</td> <td colspan="2">パンデミック様調査</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">1 回目接種</td> <td colspan="2">観察</td> <td colspan="2">2 回目接種</td> <td colspan="2">観察</td> <td colspan="2">準備観察</td> </tr> <tr> <td colspan="2">経過①'</td> <td colspan="2">D'</td> <td colspan="2">1~6</td> <td colspan="2">21*</td> <td colspan="2">22~29</td> <td colspan="2">新型インフルエンザ大流行後</td> </tr> <tr> <td colspan="2">診察</td> <td colspan="2">C' Δ'</td> <td colspan="2">D'</td> <td colspan="2">C' Δ'</td> <td colspan="2">E1**</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="2">腋下体温測定</td> <td colspan="2">C' Δ'</td> <td colspan="2">D'</td> <td colspan="2">C' Δ'</td> <td colspan="2">E1**</td> <td colspan="2">郵送・電話にて罹患を確認</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ワクチン接種</td> <td colspan="2">C' Δ'</td> <td colspan="2">D'</td> <td colspan="2">C' Δ'</td> <td colspan="2">E1**</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="2">健康観察</td> <td colspan="2">C' Δ'</td> <td colspan="2">D'</td> <td colspan="2">C' Δ'</td> <td colspan="2">E1**</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="2">E 録記入</td> <td colspan="2">C' Δ'</td> <td colspan="2">D'</td> <td colspan="2">C' Δ'</td> <td colspan="2">E1**</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="2">腋下体温測定</td> <td colspan="2">C' Δ'</td> <td colspan="2">D'</td> <td colspan="2">C' Δ'</td> <td colspan="2">E1**</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="2">有害事象</td> <td colspan="2">C' Δ'</td> <td colspan="2">D'</td> <td colspan="2">C' Δ'</td> <td colspan="2">E1**</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>○：経過、△：有害事象が生じた場合、□：各株最初の 100 例は未読¹</p> <p>補記①：接種後 3 営業日</p> <p>*1：1 回目ワクチン接種日を 0 とする。</p> <p>*2：1 回目のワクチン接種日から起算して 21 ± 7 日の幅をもたせる。</p> <p>*3：2 回目のワクチン接種日から起算して 30 ± 7 日の幅をもたせる。</p> <p>*4：健康観察日終了時、記載事項の確認をおこなう。</p>									未読 ②'		未読 ③、④'		未読 ③、④'		未読 ③、④'		パンデミック様調査				1 回目接種		観察		2 回目接種		観察		準備観察		経過①'		D'		1~6		21*		22~29		新型インフルエンザ大流行後		診察		C' Δ'		D'		C' Δ'		E1**				腋下体温測定		C' Δ'		D'		C' Δ'		E1**		郵送・電話にて罹患を確認		ワクチン接種		C' Δ'		D'		C' Δ'		E1**				健康観察		C' Δ'		D'		C' Δ'		E1**				E 録記入		C' Δ'		D'		C' Δ'		E1**				腋下体温測定		C' Δ'		D'		C' Δ'		E1**				有害事象		C' Δ'		D'		C' Δ'		E1**			
		未読 ②'		未読 ③、④'		未読 ③、④'		未読 ③、④'		パンデミック様調査																																																																																																																					
		1 回目接種		観察		2 回目接種		観察		準備観察																																																																																																																					
経過①'		D'		1~6		21*		22~29		新型インフルエンザ大流行後																																																																																																																					
診察		C' Δ'		D'		C' Δ'		E1**																																																																																																																							
腋下体温測定		C' Δ'		D'		C' Δ'		E1**		郵送・電話にて罹患を確認																																																																																																																					
ワクチン接種		C' Δ'		D'		C' Δ'		E1**																																																																																																																							
健康観察		C' Δ'		D'		C' Δ'		E1**																																																																																																																							
E 録記入		C' Δ'		D'		C' Δ'		E1**																																																																																																																							
腋下体温測定		C' Δ'		D'		C' Δ'		E1**																																																																																																																							
有害事象		C' Δ'		D'		C' Δ'		E1**																																																																																																																							

臨床試験の概要

研究名	沈降新型インフルエンザワクチンの持続性及び交叉免疫性に関する臨床試験																																																																																																																																																														
研究の目的	健康成人志願者を対象として、沈降新型インフルエンザワクチン（安徽株又はインドネシア株）の筋肉内接種における免疫原性（持続性及び交叉免疫性）及び安全性を検討する。																																																																																																																																																														
研究デザイン	非盲検試験																																																																																																																																																														
試験薬	沈降新型インフルエンザワクチン H5N1「北研」（安徽株） 沈降新型インフルエンザワクチン H5N1「ビケン」（インドネシア株）																																																																																																																																																														
用法・用量	試験薬 0.5 mL を上腕三角筋に、3 週間±7 日間の間隔をおいて 2 回筋肉内接種する。																																																																																																																																																														
評価項目	1. 免疫原性評価項目 1) H5N1 型インフルエンザウイルスに対する中和抗体価 2) H5 抗原に対する HI 抗体価 2. 安全性評価項目 試験薬 1 回目接種（Day 0）後から Visit③（事後観察）までに発現した有害事象及び副反応の種類、程度、持続期間及び発現率を検討する。																																																																																																																																																														
目標被験者数	計 200 名																																																																																																																																																														
実施医療機関数	7 施設																																																																																																																																																														
実施予定期間	2008 年 8 月～ 2009 年 3 月																																																																																																																																																														
研究体制	代表研究者：独立行政法人 国立病院機構 三重病院 院長 庵原俊昭 試験調整機関：社団法人 日本医師会 治験促進センター																																																																																																																																																														
スケジュール	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="3">経過日 (Day)</th> <th colspan="3">Visit① 1回目接種</th> <th colspan="3">観察</th> <th colspan="3">Visit② 2回目接種</th> <th colspan="3">観察</th> <th colspan="2">Visit③ 事後観察</th> <th colspan="2">Visit④ 180日後</th> </tr> <tr> <th colspan="3">Day0</th> <th colspan="3">1~7/8~</th> <th colspan="3">21</th> <th colspan="3">Day0</th> <th colspan="2">1~7/8~</th> <th colspan="2">21</th> <th colspan="2">180</th> </tr> <tr> <th>前</th><th>接種</th><th>後</th> <th>前</th><th>接種</th><th>後</th> <th>前</th><th>接種</th><th>後</th> <th>前</th><th>接種</th><th>後</th> <th>前</th><th>接種</th><th>後</th> <th>前</th><th>接種</th><th>後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">医療機関</td> <td>診察</td> <td>○</td><td></td><td>○</td> <td></td><td></td><td></td> <td>○</td><td></td><td>○</td> <td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td>○</td> <td></td><td></td><td>○</td> </tr> <tr> <td>体温測定</td> <td>○</td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td> <td>○</td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>採血 (抗体価測定)</td> <td>○</td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td> <td>○</td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td>○</td> <td></td><td></td><td>○</td> </tr> <tr> <td>試験薬接種</td> <td></td><td>○</td><td></td> <td></td><td></td><td></td> <td></td><td>○</td><td></td> <td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>自宅</td> <td>有害事象の観察 (健康観察日誌)</td> <td></td><td></td><td></td> <td>○</td><td>○</td><td>△</td> <td></td><td></td><td></td> <td>○</td><td>○</td><td>△</td> <td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○：必須、△：有害事象が生じた場合 網掛け：被験者来院日</p>								経過日 (Day)		Visit① 1回目接種			観察			Visit② 2回目接種			観察			Visit③ 事後観察		Visit④ 180日後		Day0			1~7/8~			21			Day0			1~7/8~		21		180		前	接種	後	医療機関	診察	○		○				○		○						○			○	体温測定	○						○												採血 (抗体価測定)	○						○								○			○	試験薬接種		○						○											自宅	有害事象の観察 (健康観察日誌)				○	○	△				○	○	△																					
経過日 (Day)		Visit① 1回目接種			観察			Visit② 2回目接種			観察			Visit③ 事後観察		Visit④ 180日後																																																																																																																																															
		Day0			1~7/8~			21			Day0			1~7/8~		21		180																																																																																																																																													
		前	接種	後	前	接種	後	前	接種	後	前	接種	後	前	接種	後	前	接種	後																																																																																																																																												
医療機関	診察	○		○				○		○						○			○																																																																																																																																												
	体温測定	○						○																																																																																																																																																							
	採血 (抗体価測定)	○						○								○			○																																																																																																																																												
	試験薬接種		○						○																																																																																																																																																						
自宅	有害事象の観察 (健康観察日誌)				○	○	△				○	○	△																																																																																																																																																		

臨床試験の概要

研究名	沈降新型インフルエンザワクチンのブースター効果に関する臨床試験																																																																				
研究の目的	沈降新型インフルエンザワクチン（ベトナム株）接種者を対象として、沈降新型インフルエンザワクチン（安徽株又はインドネシア株）の筋肉内1回接種による免疫原性及び安全性を検討する。																																																																				
研究デザイン	非盲検試験																																																																				
試験薬	沈降新型インフルエンザワクチン H5N1「北研」（安徽株） 沈降新型インフルエンザワクチン H5N1「ビケン」（インドネシア株）																																																																				
用法・用量	試験薬 0.5 mL を上腕三角筋に 1 回筋肉内接種する。																																																																				
評価項目	1. 免疫原性評価項目 1) H5N1 型インフルエンザウイルスに対する中和抗体価 2) H5 抗原に対する HI 抗体価 2. 安全性評価項目 試験薬接種（Day 0）後から Visit③（事後観察）までに発現した有害事象及び副反応の種類、程度、持続期間及び発現率を検討する。																																																																				
目標被験者数	計 200 名																																																																				
実施予定期間	2008 年 8 月～ 2009 年 3 月																																																																				
実施医療機関数	10 施設																																																																				
研究体制	代表研究者：独立行政法人 国立病院機構 三重病院 院長 庵原俊昭 試験調整機関：社団法人 日本医師会 治験促進センター																																																																				
スケジュール	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">Visit① 試験薬接種</th> <th>観察</th> <th>Visit② 事後観察</th> <th>Visit③ 事後観察</th> </tr> <tr> <th colspan="2">経過日 (Day)</th> <th colspan="3">Day0</th> <th>1~7</th> <th>7</th> <th>21</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>前</th> <th>接種</th> <th>後</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">医療機関</td> <td>診察</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>体温測定</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>採血（抗体価測定）</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>試験薬接種</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>自宅</td> <td>有害事象の観察 （健康観察日誌）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">△</td> <td style="text-align: center;">△</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">○：必須、△：有害事象が生じた場合 網掛け：被験者来院日</p>									Visit① 試験薬接種			観察	Visit② 事後観察	Visit③ 事後観察	経過日 (Day)		Day0			1~7	7	21			前	接種	後				医療機関	診察	○		○		○	○	体温測定	○						採血（抗体価測定）	○				○	○	試験薬接種		○					自宅	有害事象の観察 （健康観察日誌）				○	○	△	△
		Visit① 試験薬接種			観察	Visit② 事後観察	Visit③ 事後観察																																																														
経過日 (Day)		Day0			1~7	7	21																																																														
		前	接種	後																																																																	
医療機関	診察	○		○		○	○																																																														
	体温測定	○																																																																			
	採血（抗体価測定）	○				○	○																																																														
	試験薬接種		○																																																																		
自宅	有害事象の観察 （健康観察日誌）				○	○	△	△																																																													

都道府県等におけるパンデミックに備えた医療体制整備について

1. 背景

平成19年3月に当専門家会議により「医療体制に関するガイドライン」を策定し、都道府県等において医療体制の整備を進めているところであるが、十分な体制が整っていない現状に対し、都道府県・市町村・医療機関等において、以下の問題点があげられる。

- ① 新型インフルエンザ及び鳥インフルエンザに関する情報が不足している。
- ② 自治体、関係機関によって、具体的対策やその必要性についての認識（危機意識）に差がある。
- ③ 体制を整備するための都道府県（保健所）と医療機関、市町村、消防機関等、関係機関との連携が不十分である。
- ④ 以上の対策にかかる人員・予算の確保が十分に進んでいない。

2. 医療体制の整備を推進するための具体的な対応策

- 医療体制の整備の現場となる都道府県・市町村・医療機関等において、以下の対応策が挙げられる。
- 二次医療圏ごとにおける取るべき対応策の抽出
 - 関係者の役割の明確化
 - 自治体・関係機関におけるネットワークの構築
 - 保健所、医療機関、医師会、消防機関、市町村等の地域関係者による協議会の設置等
 - 体制整備の進捗状況の把握
 - 訓練の促進
 - 必要な人材の確保・養成
 - 必要な対策にかかる予算の把握・確保
- 上記の対応策を推進するために、実施主体への支援を行う国において、以下の対応策が挙げられる。
- 現在発生している鳥インフルエンザ(H5N1)の症例に関する情報の収集、及び情報提供
 - 医療体制における具体的、先進的な事例の提示
 - 都道府県・市町村、医療機関における人材の確保・養成
 - 地域において中心となる自治体職員・医療従事者等を対象とし、専門家を交えた研修・ワークショップの開催
 - 都道府県を通じた医療機関のニーズ調査
 - 必要な人材・器材(PPE、人工呼吸器等)の確保
 - 医療提供体制の法令の柔軟適用等の検討、及びそれについての都道府県への周知
 - 必要な対策にかかる予算の把握・確保

新型インフルエンザ患者の治療における 人工呼吸器確保の考え方

2008年7月30日

パンデミック時に重症の新型インフルエンザ患者が多数発生した場合、人工呼吸器が不足する恐れがある。このため、フェーズ3の段階から、必要な台数について調査・検討する必要がある。本件の検討にあたっては、以下の点に留意してはどうか。

1. 必要台数の推定について

重症の新型インフルエンザ患者の入院医療を担当する医療機関において、現在、人工呼吸器が何台あり、うちどれだけの台数が新型インフルエンザ患者の治療に確保できるか、更に人的資源を鑑みて何台使用可能か等について、調査が必要である。

2. 備蓄する人工呼吸器の種類について

備蓄する人工呼吸器の種類を選定するに当たっては、誤操作を防ぐため、現在、各医療機関で使用している人工呼吸器と同じタイプが選定される等の配慮が必要である。

3. 保管場所について

実際に使用される場である新型インフルエンザ患者の入院医療を担当する医療機関において、管理・保管できるよう検討する。

4. 関連する備品の準備について

人工呼吸器を使用するにあたっては、管理を行う医療従事者が、発生するエアロゾルを吸入したり、患者と接触することによって感染するおそれがある。このため、医療従事者を防護するために十分なPPE（個人防護具）を確保することも検討する必要がある。

新型インフルエンザ対策におけるサーベイランスシステムの 抽出された課題について

1. これまでの経緯と背景

新型インフルエンザ対策（フェーズ4以降）におけるサーベイランスシステムについては、行動計画に基づき平成19年3月に策定されたガイドラインに、9つのシステムが明記されている。しかしながら、十分な議論が終了しているわけではなく、また既存の感染症サーベイランスシステム（NESID）を活用できるものについては、各関係機関における推進が行われたが、一部のものは、実際のシステムが稼働できる状態にはない。

7月に開催されたワーキンググループでは、これらの進捗情報を交換するとともに、サーベイランスシステム別、関係機関別の課題の抽出が行われた。

2. 課題

(1) 我が国における新型インフルエンザ基本戦略に基づくサーベイランスシステムの目的の明確化

- ① 基本戦略の実施に際し不可欠な情報・データを明確化することが必要であり、このためには、まず全体戦略を明確化する必要がある
- ② そのうえで、各システムの目的を確立し、それに合致した各情報・データを収集するためのサーベイランスシステムを検討する
- ③ 関係機関と各サーベイランスシステムの目的を共有し、協力体制を確立する

(2) 個別のシステムにおける課題の解決

- 疑い症例調査支援システムの充実
- 診断・検査・ウイルス学的サーベイランスに関する体制整備
- 各自治体、医療機関におけるデータ入力の負担軽減・作業継続のための方策
- 各自治体レベルでのサーベイランスシステムに関する訓練の実施

(3) 効率的なサーベイランスシステムのためのプラン策定

- ① 短期プランの策定
基本戦略・施策決定のために必要な情報を収集するため、現存するシステムを最大限活用し、効率的なサーベイランスを行うためのプランを検討する
- ② 長期プランの策定
新型インフルエンザ対策推進のために新たに構築する必要があるシステムについて検討するとともに、それらを新興再興感染症対策全体に応用出来るよう、プランを検討する